



会長 菅原 慶一
幹事 小野寺 伸浩
会報 高田 次雄 村上 武彦
 森田 峯男
例会場 ホテルサンシャイン佐沼 ☎22-8180 FAX22-0327
例会日 毎週木曜日 12:30~13:30
事務所 ホテルサンシャイン佐沼 ☎22-8180 FAX22-0327

第2684回例会 2019. 3. 7 No.33

本日の出席率
 ・本日の出席率 78.85%

- ニコニコボックス**
- 菅原慶一会長 伊豆沼・内沼環境保全、嶋田哲郎様を歓迎します。
 - 富士原裕子会員 私の入院、長男の突然の死に対しご厚情をいただき、ありがとうございました。
 - 及川昭宏会員 本日、無事57歳になりました。今後共よろしくお祈りします。
 - 山田直志会員 今日は環境保全委員会のフォーラムです。ゲストスピーカーに嶋田哲郎様をお迎えしております。宜しくお願いします。
 - 布施孝之会員 山田直志環境保全委員長さんのフォーラムに期待します。
 - 飯塚仁哉会員 ベテラン山田直志会員のおはこ中の環境保全のフォーラム、手慣れたものでしょう。
 - 佐藤幸一会員 本日のフォーラム山田直志委員長大変ご苦勞様です。ゲストスピーカーの嶋田哲郎様大いに期待いたします。3月誕生の会員おめでとうございます。
 - 江川元徳会員 フェイクニュースの多い今の社会、四つのテストの第一を思い出す。
 - 八谷郁夫会員 環境保全委員会フォーラム、山田直志委員長のお導きを。
 - 菅野幸一郎会員 先週の例会の席上で、ほっとスペース「わっか」へのオークション収益金贈呈式の河北新報への記事の掲載は、もう少しお待ち下さいとのことでした。
 - 猪股育夫会員 山田直志委員長の格調高きフェーラム拝聴いたします。
 - 伊藤幸子会員 3月お誕生日の皆さんおめでとうございます。裕子さん出席で女性会員が揃いました。一雨一雨春に近づいているようです。
 - 小野寺伸浩幹事以下 本日のフォーラムに期待して。村上武彦会員 佐々木崇会員 千葉吉男会員 佐々木源悦会員 岩淵正彦会員 熊谷敏明会員 高橋利光会員 布施孝尚会員 山田正会員

岩淵栄市会員 杉田広仁会員 佐藤早智子会員
 及川富男会員 大畑好司会員 千葉正宏会員
 二階堂恭子会員
 以上、ありがとうございました。

会長要件 菅原慶一会長
 今日とは少々肌寒いですが、3月に入った途端に一気に春らしくなり、暖かくなってまいりました。今年は桜の開花も早くなりそうです。
 先週は、クリスマスオークション収益金を、ほっとスペース「わっか」様に贈呈させていただきました。「わっか」様の活動はご紹介いただきました内容から、不登校の子供たちに居場所を提供し、その家族や関心のある人たちが情報交換する場をつくるというものでした。そのため、勉強会や講演会、イベントなどを通して地域社会の理解を深めているということです。不登校は実は宮城県が全国的にみて一番多く、登米市では約100人の子供たちがいるそうです。本人を含めたご家族は「この先どうなるんだろう」という不安感が大きく、そのため共感される人々や情報が必要ということでした。地域とつながる、地域の支えが大きいことも話しておられました。こういった活動を続けておられる大変さと、その意味を少しだけですが感じることができたような気がしますし、繋がりを持てたことが良かったと思えました。
 今日とは、山田直志委員長の環境保全委員会のフォーラムです。ゲストスピーカーとして、伊豆沼・内沼環境保全財団の嶋田哲郎様に来ていただいております。湖沼群の環境について深く興味を持ってお聞きしたいと思います。宜しくお願いいたします。

幹事報告 小野寺伸浩幹事
 ・特になし
各委員会報告
 ・米山記念奨学会委員会 (佐々木源悦委員長)
 ロタリー米山記念奨学会より、米山功労者となりました。村上武彦会員に感謝状が届きました。これからも皆様のご協力をお願いいたします。

◎米山功労者・感謝状授与
 第1回功労者 村上武彦会員



米山功労者・感謝状授与 村上武彦会員

誕生祝 (3月に誕生日を迎えられる会員)
 及川昭宏会員 高田次雄会員 及川富男会員



3月に誕生日を迎えられる会員

フォーラム
 ・環境保全委員会 (山田直志委員長)
 日頃は環境保全の活動に対し皆様方よりご協力をいただきありがとうございます。
 本日は、この地域では一番のスペシャリストの嶋田哲郎様をお迎えし、お話を聞くことに致しました。どうぞよろしくお祈りします。

伊豆沼・内沼環境保全財団
嶋田 哲郎様
 私は、伊豆沼に3つありますセンターのうち、畑岡にあるセンターに勤めております。これから皆様の身近な環境であります伊豆沼・内沼の自然や、やってることなどスライドを使って説明させていただきます。
 伊豆沼・内沼は基本的には川の一部です。荒川の一部となっており、鹿ヶ城大橋で迫川に合流し北上川に入り下流に行きます。ですので伊豆沼と海はつながっております。伊豆沼から出て60kmの旅をして海に出ます。伊豆沼・内沼2つの沼



ゲストスピーカー 嶋田 哲郎様

の特徴は標高が低いことです。海拔6mで、標高差はたったの6mしかありません。

又、浅いということが大きな特徴で、浅いのために太陽がどこでもとどき沼一面ハスが咲き誇っています。夏のハス、冬の渡り鳥、これがここでしかない大事な景色になります。

ガンを含めて白鳥、カモといった水辺にいる鳥が日本一来る所です。冬の間10万羽の鳥が来るところはここだけです。これほど多くの鳥が集まっている地域は宮城県北部、伊豆沼・内沼を中心とした場所だけです。今現在、北帰行がほぼ完了しております。今は津軽平野にたくさんおり、それから北海道に入っていく、ロシアに帰って行くという渡りをします。

鳥をつかまえ衛星送信機を付け、衛星送信機から出た電波を人工衛星がキャッチして位置情報を送って来ると言う衛星追跡を伊豆沼でやったことがあります。鳥をつかまえるのは大変ですが、色々と工夫して尾長ガモとオオハクチョウをつかまえ送信機を付けて、春の渡りを追跡しました。

伊豆沼にいるオオハクチョウは、北上川流域を北上し、北海道の東道に行き、そこからサハリンに行きオホーツク海を縦断し、伊豆沼から東北約3,800kmの所で夏を過ごします。彼らは雪どけと共に北上していきます。

マガンは、伊豆沼を出発すると秋田を経由して北海道の石狩平野に行きます。そこからマガンは東に進路を変えてカムチャツカ半島を経由してベーリング海を渡っていきます。この様にオオハクチョウとマガンを繁殖地は少し違っています。

マガモは、アヒルの原種と言われており、ガチョウはガンからつくられております。マガモはあまり遠くには行きません。日本を出発してからロシア南部、中国の北部まで行くという鳥です。この様に衛星受信機をつけるといろんなことが分かってきます。

マガモは、昼間は田んぼに居て夜は沼に居ます。田んぼではモミを食べており、この光景はどこでも見られるものではなく、この地域だけで見られるオリジナルな光景です。ガンは現在増えており、日本では20万羽で、その中9割が宮城県にいます。

集まっている理由は食べ物にあります。ガンが一番たくさん食べているのがモミです。広い農地があって農家の方々が農業をやっているからガンが集まって来るのです。農家さんの営みそのものがガンたちの生活を支えております。

伊豆沼・内沼はモミがあつたり、とても多様な環境であり、又、ここは1月の一番寒い時の平均気温は0℃で凍りにくく、天敵のキツネが入ってこられないため安心して休むことが出来ます。多くの食べ物があり、天敵がこないということで、たくさん水辺の鳥が飛来します。

現在、自然環境に取り組んでおります。少しでもきれいな水にする水質管理、長手もブラックバスの駆除を進めております。

以下、紙面の都合上割愛させていただきます。

◎第9回理事会議事録(3月7日(木)分)◎

- 。協議事項**
 (1)次年度の野球大会の運営について
 シニアとコラボができるか。大畑青少年委員長に調査を一任
 (2)クリーンアップ湖沼群 (3/21) に参加
 (3)移動例会開催について (4/18~19)
 親睦活動委員会で決定
 (4)地区大会 (4/21) ゴルフ：4名参加
 本会議：23名参加